

① 気仙沼市教育委員会・お茶の水女子大・本センター連携事業(11月1、2日)

JICA教員研修員と一緒に、気仙沼市教育委員会を訪問し、翌日陸前高田の米崎小学校仮設住宅を視察した。気仙沼市教育委員会では、白幡教育長挨拶の後、及川幸彦副参事の東日本大震災や津波への対応に対するプレゼンがあった。その後、唐桑半島で街の人たちと電柱に海拔を表示するプロジェクトを行っている小原木中学校にて実践発表を聞き、ソーランダンスを楽しんだ。翌日は、お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環と、本センター共催の国際交流BBQを米崎小学校仮設住宅にて開催した。教員研修員はお国の料理を振舞い、仮設住宅のお年寄りや子供たちは、日英入交の会話で交流を深め、楽しい時間を過ごすことができた。



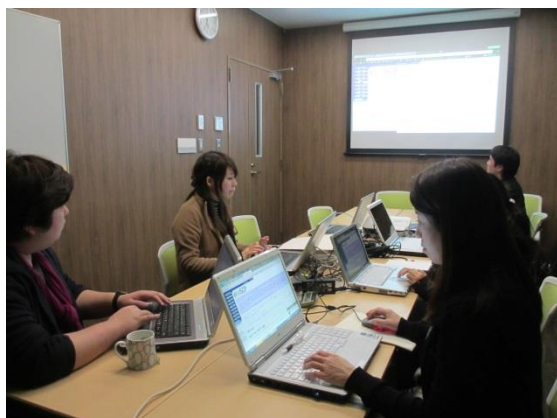
② 第9回復興カフェ in Miyakyo 開催(11月20日)

フィリピン台風30号被害について、「私たちにできる恩返しを考える」復興カフェを開催した。市瀬智紀教授とフィリピンからの留学生・Junry M. Esparar氏からフィリピンの現状についてお話しいただいた。その後、6グループに分かれて「私たちにできること」について討論した。



③ HP作成講習会(11月25日～7回開催)

本学院生・坂垣翔太氏(日本産業技術教育学会主催「第7回技術教育創造の世界発明・工夫作品コンテスト」で最高賞の学会長賞を受賞。また、本学の学長賞も受賞)補助による学生・職員対象のHP作成講習会を連続で開催している。教育復興支援センター内・学生のページ充実や職員のスキルアップが期待される。



ホームページ作成講習会

- 第1回
 - ・HP作りはWordと同じ
 - ・Webページ制作の仕組み
- 第2回
 - ・サーバにアップ
 - ・他のページへリンク
- 第3回
 - ・画像の挿入
 - ・好きなものの紹介ページ
- おまけ
- スライド

第1回

HP作成はWordでの文書作成と同じ

Wordでの文書作成は皆さんも経験があると思います。HPの作成も実はこれとはほぼ同じなのです。

つまり、難しく考える必要はないのです。

いきなりですが、早速HPを作ってみましょう！

メモ帳を起動し、「テスト」と入力しましょう。

それを「test.html」という名前で保存し、保存したファイルをダブルクリック

し、ブラウザで開いてみましょう。

入力した「テスト」という文字が表示されました。

文字を入力すればそれが表示される。Wordと一緒にですね

では、次に「テスト」の「ト」を太字にしてみましょう。

Wordでの操作は、「ト」を選択して、「B」と書いてある太字ボタンを押すだけです。

HTMLではどうでしょうか？

⑦ お茶の水女子・附属校との連携事業

（仙台近郊被災地視察・学生企画第3弾 気仙沼被災地視察研修（12月14日・土～15日・日）

お茶の水女子大・水野勲教授の被災地視察調査に、お茶大附属高校ボランティア部関係者が同行した。土曜日は仙台市近郊調査視察、翌日は、本学学生企画の気仙沼被災地視察研修を実施した。土曜日の半日コースは、仙台市立荒浜小学校、関上中学校、名取市日和山、国の重要文化財に指定されている洞口家住宅、岩沼市千年希望の丘を視察した。翌日の気仙沼視察は、気仙沼出身の本学学生2名が運営スタッフとしてメディアへの対応、視察現場との連絡調整などの大部分を担当した。



気仙沼プラザホテル屋上にて

⑧ 非常用発電機の定期運転（12月18日・水）

当センターに設置された非常用発電機には、設置の機能保全のため毎月1回10分間の定期運転が義務づけられているので、定期運転を実施した。この非常用発電機は、センター棟2階サーバー室の電源を確保し、非常用に備えるためのものである。



センター1階正面玄関に設置

⑨ 大郷町教員研修会（12月24日・火）

大郷町教育委員会主催、本センター共催で教員研修会を開催した。テーマは「東日本大震災の影響が懸念される児童・生徒を考慮した授業づくり」と題し、吉田利弘特任教授が★学校生活での授業時間の占める割合を基に、授業を通じた教育経営の在り方★思考力・判断力を高めるために表現力を重視した授業経営の在り方★授業を軸にした、児童生徒の学ぶ意欲の向上、教職員の指導意欲の向上のための学校運営の在り方等を講話した。



⑩ 教育復興支援ボランティア協力員第2回総会（1月15日・水）

本学学生の教育復興支援ボランティアに対する興味・関心を高めることを目的に立ち上げた、教育復興支援ボランティア協力員の第2回総会が開催された。約100名からなる協力員の代表から、今年度の総括（活動報告や成果、反省点など）があり、1年生の協力員より来年度の体制（運営メンバーなど）の提案があり、新入生への協力員呼びかけ体制などが確認された。新年度になれば、3年、2年、1年（新入生）の協力員が揃う。

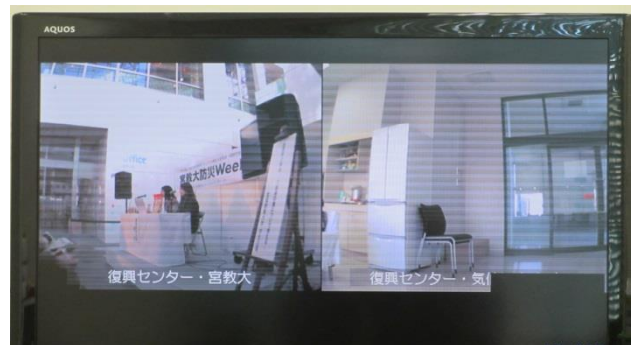


⑪ AERで学ぼう 宮教大防災Week（1月21日・火～25日・土）

本学が受託した【学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業】の一環である、標記防災連続講座に特任教員たちが講師として協力した。協力した講座は、オープニング＊第3回国連防災世界会議仙台開催の意義、＊津波災害と学校-東日本大震災時の津波避難行動から学んだこと、クローリング＊東北から語り継ぐ未来へのメッセージ-3.11の経験から、である。なお、この連続講座について、TV会議システムを活用し、本センターや気仙沼ランチへ同時中継にて配信した。



オープニング



センター事務室TV アエル会場(左)・気仙沼ランチ(右)



Date fm 「Hope for MIYAGI」の公開収録



クローリング

④ 学生企画第2弾 南相馬被災地視察開催（12月7日・土）

南相馬出身の本学学生2名がガイド役を務める南相馬被災地視察を実施した。気仙沼被災地視察について、学生企画第2弾である。今回は、父兄、留学生、仙台市の国連防災世界会議準備担当課長など多様な参加者約40名が、坂元町立中浜小学校、瓦礫処理施設、小高区の市街地、海沿いなどを視察した。車中では南相馬にちなんだクイズなど楽しい企画もあった。



小高駅前に置かれたままの自転車



⑤ 南東北3大学連携シンポジウム（12月8日・日）

仙台情報・産業プラザ（AER）にて、東北の未来創りと大学の使命と題した標記シンポジウムを開催した。山形大学・結城章夫学長の基調講演「ソフトパワー大国をめざして～東北からの発信の可能性～」やパネルディスカッション（コーディネーターに野澤令照副センター長、パネラーに小田隆史特任准教授が参加）があり、閉会の挨拶には、福島大学・入戸野修学長の手品も披露された。



⑥ 石巻市立鹿妻小学校復興マップ発表会（12月11日・水）

本年、6月・7月に東北大学災害国際研究所・佐藤健研究室主催の、石巻市立鹿妻小学校での「復興マップづくり」プログラムの一環として本学のボランティア学生を石巻市立鹿妻小学校へ派遣した。その鹿妻小学校の子どもたちから、感謝の気持ちのこもった「復興マップ」の完成発表会の招待状が届き、3名が出席した。4学年12チームが、平成24年度のデータも掲載した復興マップを順次発表した。発表会には、学生ボランティアに交じって、地域の方々や父兄も多く参加した。発表後、完成した復興マップは廊下に張り出されゆっくり見ることができた。この復興マップは東北大学災害国際研究所で冊子にする予定である。



ボランティア学生へ届いた手作りの招待状

